

グリフィスと勝海舟、ふたりの日記より（和文は「海舟日記」、英文は明治四年までは山下英一氏『グリフィスと福井』より、明治五年以降は蔵原三雪氏“W. E. Griffis' Journal”（武蔵丘短期大学紀要）より、手紙は山下氏『グリフィス福井書簡』より引用しました）

	和暦	西暦	
明治三年	11月26日	1/16	米国より悴先生越前江雇われ候旨一封来る。（グリフィスは1870年12/29に来日し、東京滞在中）
	11月27日	1/17	春嶽殿江米国人之事、并同人江悴礼状差出。（当時、勝は静岡に、春嶽は東京に在住）
	12月26日	2/15	昨越老公より返書、米教師同断。（越老公＝春嶽。グリフィスは1871年3/4福井着任）
明治四年	3月12日	5/1	越前福井藩御雇米人江写真・白絹一反、村田巳三郎江一封、同藩飛脚江頼み遣す。
	3月20日	5/9	太田源三郎、松屋伊助の手紙持参。福井藩へ雇われ候旨、御印章頂たき由、申聞く。 （太田がグリフィスの助手として福井藩に雇用された記事。松屋は横浜の商館の番頭）
	5月25日	7/12	福井藩堤五一郎、米国グリューブス氏江教師之事聞合せ方頼む。
		7/25	One of the Go Dai Sangi called, bearing a message from Mr. Kats Awa of Surunga, and asking for a foreign teacher from America. Long and pleasant talk.（権大参事＝おそらく堤）
	6月15日	8/1	越前米教師より吾藩雇入然るべき者これあり、早々否や申遣候様申越す、浅野江右等談す。
		8/4	Ah- I didn't tell you of Clarkie. I am so glad he called to see you. By this mail, I send him a position with a salary of \$3600 per year in Suruga in sight of Fusiyama, about 100 miles south of Yokohama. He will call and see you, before he leaves America. He will be required to teach mainly Chemistry and Natural Philosophy. （グリフィスが福井から故郷の姉に送った手紙より。同日、勝もグリフィスに返事を出しています）
	6月18日	8/4	越前クリューフス江返答并答書等差出。
	8/17	Afternoon, letters from Kats Awa, Suruga.	
	8/20	By this mail, I send Clarkie a letter from Katsu Awa, the Suruga officer, who is charged with the duty of getting a foreign teacher. I have had several pleasant little "points" put in for Clarkie's benefit, and I think his place will be a good one. I know this, that had I my choice seven month ago, knowing all I do now, I should have gone to Suruga.（家族への手紙より。福井における米国との通信の不便さを大きなストレスとしていた当時のグリフィスが、福井藩同様の好条件で、横浜に近い静岡で雇われるクラークへの羨望を吐露しています）	
7月16日	8/31	同人（戸川鉾三郎）より、十五日、知藩御廃の仰出されこれある旨申越す。（廃藩置県の記事）	

- 7月22日 9/6 越前へ一封差出す。浅野へ頼み遣す。元知事殿、九月中出府致すべき旨の御達し来ると云。
- 8月14日 9/28 越前より米師雇入れ条約下案来る。直ちに浅野へ遣す。 (浅野氏祐は静岡県参事)
- 以後東京 9月20日 11/2 夜に入、御雇之米教師クラーク来訪、仮条約和文渡す、小鹿并竹村・大久保其他書状持参、明日横浜江参り候由、バラ一井口方江尋候へは居申候旨申聞。 (勝は9月3日から東京に滞在中。竹村謹吾と大久保三郎は米国に留学中。J.H.バラはReformed Churchの宣教師でクラークの大学の先輩)
- 9月24日 11/6 越前グリュービス氏江クラーク来着之事等申遣、太田源三郎同断、伊藤友四郎江二通共届方頼。
- 9月晦日 11/12 服部より大儀見已下文部省江可願旨外務省に而申聞られ候旨、并米教師宗法之箇条抜き候旨等申越。
- 10月2日 11/14 矢田堀より越前クリュービスより差越之定約英文并山田之手紙到来。
- 10月9日 11/21 和田助三郎、教師、定約書受取渡し相済み候旨、十七日頃静岡へ出立、十一日邸へ来ると云。
- 10月11日 11/23 教師来訪。(静岡へ発つ前のクラークと。この年の末に勝も静岡へ帰ります)
- 明治五年 2月27日 4/4 米人グリュービスより一封。当地教師、教時の限、并に医師の事等申越す。早速教師へ話す。
- 3月12日 4/19 赤松、榎本へ尋ぬ。グリュービス氏同断。(勝は3月3日に静岡を発って東京へ移住しています)
- 8月13日 9/15 東京教師クルリュビス氏来訪。
Called on Asahi, walked to Katz Awa's house, beyond Akasaka Go Mon, had a pleasant call.
(旭小太郎は岩倉具視の次男具定が1870年に米国に留学してグリフィスと出会った時代の名前)
- 明治六年 9月17日 中村敬太郎へクラーク氏の身上談。一封差出託す。
- 明治七年 1月31日 クラーク氏より来。二、三日の両日の内、招き手紙来る。
2/2 Evening Katsu Awa, Okubo, Chiji of Tokei, Hatakeyama, Ideura, Nagataki to dinner.
(大久保一翁は東京府知事、畠山義成は開成学校校長、出浦力雄は英語に堪能な旧福井藩士)
- 7月16日 グルービュス氏、近々帰国につき暇乞、并に本邦歴史論集の積の由にて万解すべからざるの儀出問、并書類国元へ送呉候様の願。(グリフィスは18日に汽車で横浜へ、19日に帰国の船が出ます)
Lovely sunset, then at Katsu's house, talking history till 10 P.M. Starry night, busy till 1 A.M.
- 明治八年 3月6日 米人クラーク氏帰国に付き暇乞。中村同道にて来訪。欧州へ廻り帰郷と云。

※明治六年以降、和暦と西暦の日付は同じです。